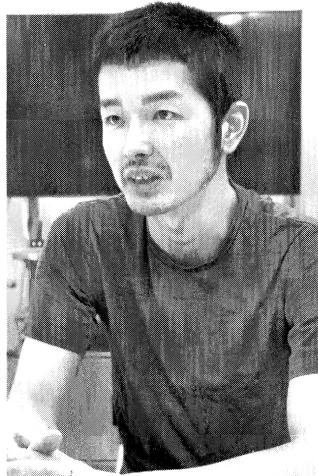


## 向島 和詞さん（静岡県藤枝市）



静岡県藤枝市の葉っぱい  
向島園は、有機栽培で茶を

生産する。代表の向島和詞

さん（31）は18歳で経営を引

き

継ぎ、栽培手法のこだわりを物語として発信、顧客を確保する。2017年度からは、新設した工場で有機てん茶の製造も開始。地域の役に立とどく、周辺農家の茶葉を受け入れる。

「需要は自力でつくる」と

**経営メモ** 茶「やぶきた」を中心に有機栽培し主にてん茶、煎茶として販売する。妻、パートタイマー1人、社員4人と作業する。父の代で茶では全国初の有機JAS認定、自分の代で09年に海外有機認証、15年にJGAP認証を取得した。小売りや卸への販売の他、自社でネット販売もする。82年から有機栽培に取り組む。

# 栽培のごだわり 物語化 てん茶も広め地域に恩返し 需要は自力でつくる

（吉本理子）

◇

茶業界は厳しい

といわれていることに

ついて、どう思いますか。

そうは思わない。売れ

ない」と言っている人は、

茶を売る努力と、自分がな

ぜ茶業をなりわいにするの

かの哲学が足りないだけだ

と感じる。戦略次第で、チ

ヤンスはつかめる。うちで

はこだわりを持つ人に「葉

っぱい向島園の茶」として

買ってもらえるよう取引

を見極め、パンフレットや

パッケージでPRをする。

消費者にも、栽培の背景に

ある物語ごと売り込んでい

ます。

茶一本で勝負する。

（吉本理子）

も、茶が売れないから野菜

を栽培する、国内で売れない

から海外で売るというマ

イナス思考からの転換では

苦しくなる一方だ。消費者

の声をヒントに、独自に開

発した「一本仕立て」で栽

培した茶の機能性を調べて

みネラルが豊富なことを売

うらでは植物にストレスを

与えないと第一に考え

ブティーも開発してきた。

栽培の背景、味など、こだわ

り込んだり、カフェインや

タンニンが少なく赤ちゃん

でも飲める茶を作ったり

れる。てん茶を除き遮光せ

りながら、カーフィンや

タンニンが少なくて赤ちゃん

ず、光をいっぱい浴びさせ

る。てん茶を除き遮光せ

りながら、カーフィンや

タンニンが少なくて赤ちゃん

ず、光をいっぱい浴びさせ